



Tohoku Ryokka Kankyochozen

～PRESS RELEASE～

2026 年 8 月 18 日

東北緑化環境保全株式会社

「シジュウカラガン復活」をテーマにワークショップを出展
～ぬり絵やモビール工作で地域の自然環境への理解深める～

東北緑化環境保全（仙台市、社長 山形安生）は 8 月 3 日、多賀城市立図書館にて、学校法人 仙台育英学園との共催で「シジュウカラガン復活プロジェクト」を PR するワークショップを出展した。

シジュウカラガンは、かつて仙台市や多賀城市周辺の水田に多数飛来し越冬していた渡り鳥で、一時絶滅の危機に瀕したことから復活活動が進められている。同イベントでは、シジュウカラガンの生態や絶滅危機から復活に向けた歴史を来場者に紹介し、地域の自然環境が持つ価値への理解を深めてもらう機会となった。

ワークショップでは、訪れた子どもたちにシジュウカラガンのぬり絵体験、飛翔する姿をイメージしたモビール工作体験を提供した。ぬり絵体験では、子どもたちが思い思いに色筆を走らせ、色とりどりのシジュウカラガンを完成させた。完成した作品は仙台七夕の時期に合わせた七夕すだれにひとつひとつ飾り付けられた。色とりどりに飾られた七夕飾りが会場に涼しげな彩りを添えた。モビール工作体験では東北緑化環境保全 環境調査部の菅原果歩さんが実際のシジュウカラガンを観察してデザインしたモビールを使用。羽の色や模様などの特徴を再現した精巧なモビールは、ひもを引くと翼をはばたかせる仕掛けが施されており、参加した子どもたちからは「本当に飛んでいるみたい」「すごい」といった声が上がった。ワークショップは 3 時間という限られた開催時間ながら、図書館を訪れた多くの家族連れで賑わった。

「シジュウカラガン復活プロジェクト」は 2022 年度から始まった取り組みで、東北緑化環境保全をはじめ、日本雁を保護する会・学校法人仙台育英学園が協働して進めている。シジュウカラガンを仙台市近郊に復活させ、飛来する風景を未来につなぎ、共に生きる心を育むことを目指し、勉強会や観察会のほか、政策提案シンポジウムの開催、地域の方々との交流会など、多様な情報発信活動を展開している。

以 上

[添付写真]

- (1 枚目) 精巧なモビールに目を輝かせ工作する子どもたち
- (2 枚目) 好みの色でシジュウカラガンのぬり絵を楽しむ子どもたち
- (3 枚目) 七夕すだれを色とりどりのシジュウカラガンで飾り付ける様子



